

講演「災害に強い地域コミュニティづくり」

講師：青野 文江 （財）市民防災研究所主任研究員

「災害に強い地域コミュニティづくり」をテーマに、体験に基づいた講演が行われました。

講演内容は、①新潟県中越地震の教訓、②2003年十勝沖地震の教訓、③阪神・淡路大震災の教訓、④知恵と工夫で災害をのりこえよう、となっています。以下にその概要を紹介します。

#### 1. 新潟県中越地震の教訓

交通網の途絶と土砂災害、災害ゴミの問題（集積ゴミの分類撤去に膨大な費用がかかる）、救援物資は必要なものをそのタイミングで送るのが難しいこと、さらには物資保管に場所をとることから、個人の救援は物よりもお金が有効であること等が指摘されました。

#### 2. 2003年十勝沖地震の教訓

強い揺れの最中の移動は危険であること、何よりも身の安全を図る必要があること、明け方（4：50頃）の地震で起きて動き回ったために怪我をした人も多いこと等、実例を挙げて指摘され、安全な居住空間を作っておくことの必要性が述べられました。

併せて、耐震補強の必要性が指摘されました。

#### 3. 阪神・淡路大震災の教訓

自助・共助の必要性が述べられ、阪神・淡路大震災では生き埋めや閉じ込められた際の救助者は、自力、家族、友人・隣人が約95%であったこと、死者のほとんどは検死結果から15分以内だったこと、被災者がどれだけ助けられる側から助ける側になれるかが重要であること、災害にあった場合、まずは自分と家族の無事が確認できてはじめて他の人の助けに向かうことができる等が紹介されました。

また、救助の優先順位は「隣の人から」とは限らないこと（日頃の付き合いが大事）、避難所での治安維持も重要であること等が実例により紹介されました。

#### 4. 知恵と工夫で災害をのりこえよう

災害発生時に身を守る事例の紹介がなされました。

- ・命を守る方法として、家具による死傷から身を守るため、簡単にできる家具の固定法。
- ・二次災害から命を守ることとして、火災の場合を例に煙からの避難方法。
- ・被災生活をのり切るために、日頃から準備しておくこととして、生活用水の確保、備蓄品、食用油で作れる手づくりランプ、さらにこのランプの応用でご飯が炊ける等。
- ・楽しく続けられる防災訓練・防災活動

災害に備えて、みんなで行う町の防災マップ作りや問題点を確認するための防災子

エックの重要性、住まい周辺の防災マップから災害に対する課題が見えてくること等が指摘されました。さらに、ありあわせのもので作る災害時の炊き出し訓練などが紹介されました。

#### 5. まとめ

長続きする災害への備えとして、欲張らずに無理なくできることから実施すること、少しずつ仲間を増やしながらかしんでやること、災害時はいつもと同じことしかできないこと等が指摘されました。

さらに、災害に強い地域コミュニティについて、お祭りと防災訓練の共通点を挙げ、お祭りができる地域は災害に強いこと、お祭りで行うことは防災訓練そのものでもあることが指摘されました。